

学校法人 文徳学園
令和4年度 文徳高等学校・中学校評価表

1 教育方針

- 建学の精神に則り「体・徳・智」の調和のとれた、科学的思考のできる人材を育成する。
- 学問を好み、学力充実のために刻苦勉励し、併せて、人徳を備えた人材を育成する。
- 人の立場を理解し、自己抑制の効いた、思いやりや優しさを備え、人のために汗を流せる、奉仕精神旺盛な人材を育成する。
- 多様化する社会の中で、不撓不屈の精神をもってリーダーシップを発揮できる人材を育成する。

2 本年度の教育重点目標（新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底を図って次の目標に向かう。）

- 4つの生活信条「奉仕精神を旺盛にする」、「人の立場を深く理解する」、「物を大切に」、「礼儀作法を実践する」を実践し、心豊かで社会に貢献できる人材の育成を図る。
- 学習指導、進路指導、生活指導、広報活動の更なる充実を図る。
- 施設設備の充実、教育環境の整備を図る。
- 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実を図る。

3 自己評価総括表

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点(具体的目標)	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	①「体・徳・智」の調和がとれ、科学的思考のできる人材を育成する。 ②コースの特色、生徒一人一人の個性を生かした教育活動を展開する。	・4つの生活信条を学校生活・教育活動で実践する。 ・基礎から応用まで徹底した学習指導を行い、進学・就職の実績を高める。 ・運動部活動や文化部活動の活性化を図る。	A	コースの特性に沿ったカリキュラムを編成し、コース内において進路希望別のクラス編制を行い、多様な進路希望に対応した教育活動を展開した。新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、生徒の進学・就職へ向け、生徒個々の希望に沿った進路指導を継続した。部活動においても、感染症防止対策を講じながら、活動を継続し、各種大会で輝かしい成績を残した。
	開かれた学校づくり	③学校のHPや広報誌「文徳点描」で適切な情報発信をし、学校理解を進める。 ④保護者、地域及び関係機関との連携を図る。	・HPや学校通信「文徳点描」の充実を図る。 ・内部広報の充実を図る。 ・PTAや同窓会、学校評議員、地域等と連携し、協力体制を構築し、生徒支援の教育活動を推進する。	B	HPは動画(You Tubeチャンネル等)による発信内容を充実させ、学校の状況を分かりやすく伝えるものとした。「文徳点描」の発行が5回に留まった。新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、文徳会総会(保護者総会)、運営委員会・合同理事会・学年別保護者会を計画どおり実施することができた。
	教育環境の整備	⑤教育環境整備を推進する。 ⑥年2回計画的に施設整備を点検し、危険箇所等の早期発見、早期対応を図る。	・ICT教育を展開するための教育環境を整備する。 ・理科教育振興法にもとづいて、理科教育機器等の更新を行う。 ・照明設備の点検を行い、取替および増設工事を行う。 ・学校設備不具合調査を年2回実施する。	B	・カラープリンターを配備し、自動採点システムを試行導入することで、校務の効率化に取り組んだ。ICT支援員を配置し、個々の課題解決に活用した。 ・理科教育機器等を更新した。 ・第1グラウンドの照明設備の取替および増設工事を実施した。 ・学校設備不具合調査を年2回(7月・12月)実施して危険箇所等を確認し、崇城大学陸上競技場から理工科実習棟へ下る坂道への外灯設置および3号館裏の大学ポンプ室横の陥没箇所埋め戻し工事を実施した。
学力向上	授業力の向上	①学習指導方法の工夫・改善を施し、授業の充実を図る。 ②各コースの実情を見据え、3年間を見通した指導計画に基づき学力の定着・向上を図る。	・ICT教育を展開するため、職員の活用能力の向上を図る。 ・各コースごとの特徴を踏まえて、学力向上(基礎力の定着、応用力の涵養)に向けたシラバスを作成し、各教科担当者が工夫した授業を行う。 ・研究授業、公開授業、生徒による授業評価を実施し、指導力のアップを図る。	B	・ICT活用推進委員会を中心に職員研修を行い、ICT機器を活用した校務、教科指導への活用頻度を高めた。 ・コースごとの特徴を生かした授業展開ができた。授業公開WEEKを年3回実施することで、相互の授業を教職員の学びの場とし、各職員が自身の授業力向上に努めた。生徒アンケートから得た授業評価を担当者へ確実にフィードバックし、指導力アップに繋げる。
	学習習慣	③家庭学習の習慣化を図る。 ④生徒の課題学習への取り組み状況を把握し、適切な学習指導を行う。	・教科担当者は授業後の課題を提示し、家庭学習を促す。週末には週末課題を提示する。 ・家庭学習時間の調査を行い、個々の生徒の学習状況を把握・共有する。	B	休暇中の課題の提示をICT機器を使って行ったり、AI型ドリル「すらら」を使ったりと、教師それぞれが工夫しながら学習指導に臨んだ。今後は生徒の学習状況をICTを利用してより客観的に把握し指導に生かしたい。
	読書指導	⑤生徒が本に親しみを持つような情報を発信し、生徒の読書意欲を高める。 ⑥読書週間を周知徹底し、読書習慣の定着をはかる。	・図書館教育、読書指導の充実を図るため、生徒会図書委員会の活発な活動を促す。 ・定期考査後の読書週間を更に活用し、読書に向かう姿勢を育む。 ・『図書だより』を年4回発行し情報伝達を図る。	B	コロナ禍にあって、感染防止対策を講じながら、読書活動の啓発に取り組んだ。読書感想文等の校外コンクールへ多くの生徒が投稿した。また、生徒会図書委員会の活動を通して、文化行事における本の紹介・『図書だより』を年4回発行・図書情報『金峰』の発刊等の読書奨励活動を実施した。
キャリア教育(進路指導)	進路目標設定 進路情報提供	①指導・支援の強化 ②設定目標への指導内容の充実 ③進路ガイダンス機能の充実 ④就職希望者全員合格 ⑤国公立大学への合格者増加	・学年と連携し、生徒の進路意識を高めるために、進路講演会や進路情報の提供を行う。 ・指導力、組織力向上を図るために、他校視察や外部講演会参加を促す。 ・LHRを活用し、進路学習を推進する。 ・就職面談を[3月/4月/5月/6月/7月]に実施する。就職ガイダンスを[5月/6月/7月/10月/12月/1月(2回)]実施する。面接強化指導を[8月/9月]に実施する。内定者セミナーを12月に実施する。2T職場見学会を10月に実施する。 ・大学の体験講座や見学、インターシップを進路選択の契機とする。	B	・一人一人の生徒のニーズに応じた課外授業・進路ガイダンス・個別指導等を展開した。今後も、コースの特性に応じた進路指導のビジョンをより一層明確にしていこう。対外模試の結果をもとに、担当者が普段の指導内容について省察する機会を提供した。 ・コロナ禍にあって生徒の体験学習が不足していたが、就職ガイダンス、面談等を予定どおり実施することで、就職意識が向上し、自発的に就職活動に取り組めるようになった。今年も企業就職希望者の合格率は100%を達成した。 ・大学入学共通テストをはじめ、大学入試では思考力・判断力・表現力がより一層問われており、授業実践について研鑽を積む機会を提供したい。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点(具体的目標)	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な生活習慣の確立 ②生活信条の実践 ③掃除の徹底 ④服装・容儀を正す ⑤遵法精神の涵養 ⑥情報化社会に伴う諸問題の把握と加害・被害防止対策 ⑦薬物乱用防止の啓発と運動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健やかな成長を支える基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ・新入生研修や各学年集會を通じて人としてより良く生きる教育を行う。 ・保健部や学年と連携し、健康観察簿等で遅刻・欠席の状況把握を行い、必要に応じて、適切に指導する。 ・教育環境づくりに力を入れる。拭き掃除の徹底・整理整頓の励行を粘り強く継続する。 ・学期末に美化コンクールを実施し生徒が責任を持って積極的に校内美化に取り組むよう啓発する。 ・スマホ安全教室の実施等を通して、SNSの使い方について、正しい知識を身に付けさせる。 ・薬物乱用防止の啓発と運動の推進のため、外部講師等に依頼し、正しい知識を身に付けさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、感染防止対策の徹底を喚起すると同時に、生徒同士がお互いの人格を尊重し合い、協力し合うよう呼びかけた。各学年集會ではルール、マナーの遵守の徹底を呼びかけ、朝の登校指導では、遅刻指導を行った。今後も、生徒個々の規範意識の向上を目指し、整容指導を含めた日常的な生活指導の充実を図る。美化コンクールを行ったことで生徒1人1人の意識が高まり、責任をもって取り組む生徒が増えた。コロナ禍でスマホ安全教室の実施はできなかったが、少年犯罪防止講話をとおして、SNSの使用で人を傷つけないようにと啓発を行った。また、少年犯罪防止講話をとおして、薬物乱用防止の啓発を行った。昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍の生活に欠かせないマスク着用、手指消毒の徹底に力を注いだ。生徒が登校する前に校舎内の換気を毎朝行った。
人権教育の推進	人権教育を推進し、豊かな人間性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ①他者への思いやりをもって対応できる人間の育成 ②命を大切にすることを育む指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の人権意識を高めるため、人権同和教育講演会を実施する。 ・人権啓発作品、標語・人権メッセージ等への応募率を上げる。 昨年度応募率：人権啓発作品標語(対象：高1) 応募率253人(63%)人権メッセージ(対象：高2) 251人66% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権同和教育講演会を演題「ネットトラブルに巻き込まれないために」で実施。高校3年生はリモートでの参加とし、全校生徒に実施できた。 ・人権啓発作品への応募率は、標語(対象：高1)220人(58%)。人権メッセージ(対象：高2)260人(66%)例年と同様の取組ができたが、標語への応募数が5ポイント減少した。感染症の流行状況を踏まえながら、全校生徒を対象とした対面の講演会の実施を検討する。
いじめの防止等	「いじめ」の未然防止・早期発見・迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ安全教室等を通して啓発活動を行う。 ・心のアンケート等を通じて、「いじめ」の早期発見に努め対応する。 ・いじめ対策委員会を実施し、生徒の状況を把握して迅速な対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ安全教室を実施し、感想文等で生徒の反応を確認する。HR等で定期的に啓発活動を実施する。 ・心のアンケート等を通じて、「いじめ」の早期発見に努め、発見した場合は、いじめ対策委員会で検討し、生徒指導部・学年・担任と連携して迅速に対応する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でスマホ安全教室の実施はできなかったが、人権同和教育講演会「ネットトラブルに巻き込まれないために」を通して、啓発活動を行った。 ・心のアンケートを実施することで「いじめ」の早期発見に繋がった。 ・いじめ対策委員会を開催し、保護者の協力を得て、生徒指導部、学年、担任で継続的に対応した。 ・今後は、生徒へのアンケート調査を年に複数回実施し、早期発見に繋げたい。
健康教育	健康で安全な生活	<ul style="list-style-type: none"> ①自己理解を図り、健康管理ができる生徒を育成する。健康観察(出席者)1限目開始前の入力100%達成。受診報告書の回収率50%達成。 ②心身の疾病やケガに対して予防・対処できる生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と協力し、健康観察を実施する。生徒に健康状態の入力や受診を促す。 ・学校施設の安全点検を体育科、総務部、衛生委員会と協力して実施する。 ・感染症の発症・発生のリスクが高まる時期に合わせて保健だよりを発行する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察(出席者)1限目開始前の入力は40%程度。2学期終業式に受診を呼びかけ、受診報告書の回収率は22.6%であった。さらなる改善が必要。 ・各所と連携し、安全点検を実施した。暑い時期に起こりやすい食中毒・熱中症について保健だより等で啓発した。 ・ロイロノートでポスター等を閲覧できるようにし、感染症対策の啓発を行った。 ・安全点検を実施できたことや、ロイロノートを使った啓発ができたことはよかった。
	教育環境の整備	③全ての生徒が安心して学校生活を送ることができる環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりだけでなく、ポスターも作成し各教室に掲示する。保健だよりはchromebookのロイロノートでも公開する。 ・カウンセリング部とのICTを活用した情報共有システムを作る。 ・消毒液、CO2濃度測定器を各教室に設置し、生徒の自主的な感染対策の実施を促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりだけでなく、ポスターも作成し各教室に掲示した。保健だよりはchromebookのロイロノートでも公開した。情報発信の方法を増やすことができたことはよかった。 ・カウンセリング部との情報共有は連絡会をとおして口頭で行っているが、まだ、ICTを活用した情報共有システムの作成ができていない。次年度は情報共有システムを構築し、委員会を授業時間に組み込むことを教務部に依頼する。 ・消毒液、CO2濃度測定器を各教室に設置したことで、生徒一人一人の感染防止への意識が高まった。
保護者との連携	円滑な文徳会(PTA)活動の実施および連携	文徳会総会において出席者70%以上。 その他の文徳会行事を対面で実施する。	感染防止対策を講じて文徳会総会・学級懇談会を実施する。その他の文徳会行事も対面での実施で計画を進める。	B	感染防止のため、PTAスポーツ大会の種目を新種目としたが、今年度も実施は叶わなかった。文徳会新聞では職員紹介の顔写真を撮影し、新聞の発行を行った。朝の挨拶運動も計画どおり実施できた。文徳会総会の出席者は50%であったが、感染防止のため、令和2年度からの書面総会であった総会を今年度は対面にて実施できた。文徳会新聞用の職員写真を来年度は生徒の証明写真撮影時に実施することを検討。PTAスポーツ大会を感染対策を講じて実施する。生徒会を中心とした挨拶運動の実施を検討する。
特別活動	学校生活、学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人一人が学校行事や生徒会行事、学級行事に積極的な姿勢で参加する。 ②生徒会活動の活性化と学校行事の見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会・各委員会の活動内容を、生徒が主体性をもって活動しやすいように見直しをする。 ・文化祭やクラスマッチ等の行事の充実を図る。 ・HR活動の時間を通して、生徒の主体性を育てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会(雨天のため体育館で実施)・文化祭・クラスマッチは感染対策を講じて実施した。芸術鑑賞会(落語会)は、密集を避けるため、体育館に椅子を配置し、全校生徒を入れて実施できた。毎月の委員会活動についても、活動の時間・場所を指定して定期的に実施できた。

4 学校関係者評価

(1) 生徒による評価 (アンケートより)

- | | | |
|------------------------------------|--------|------|
| ① 学校が楽しいですか。 | | |
| ・楽しい・まあまあ楽しい | 肯定的な回答 | ◇93% |
| ・あまり楽しくない・楽しくない | 否定的な回答 | ◇7% |
| ② スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがある。 | | |
| ・ある・少しある | 肯定的な回答 | ◇79% |
| ・あまりない・ない | 否定的な回答 | ◇21% |
| ③ 授業が分かりますか。 | | |
| ・分かる・まあまあ分かる、 | 肯定的な回答 | ◇82% |
| ・あまり分からない・分からない | 否定的な回答 | ◇18% |

①の「学校が楽しいですか」という質問への回答から、ほとんどの生徒が本校での高校生活を楽しんでいる状況が窺える。コロナ禍にあっても、学校行事を工夫しながら実施できたこともあり、「楽しい・まあまあ楽しい」の数値が前年度から2.4ポイント増加している。「楽しくない」と明確に回答した生徒は2%で、0.3ポイント減少したものの、昨年同様2%を超えている。今後もより多くの生徒が充実した高校生活を送れるよう丁寧に生徒の声に耳を傾けて行く。

②の「スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがある」という質問に対する肯定的な回答が79%であり、昨年度より2.2ポイント上昇した。今後も挑戦する行動力とやり抜く力を育て、自信につなげていきたい。

③の「授業が分かりますか」という質問に対する「分かる・まあまあ分かる」という肯定的な回答は、昨年度と同じ82%であった。今後も、より分かりやすい授業づくりを心掛け、授業の質の向上に取り組んで行く。

(2) 学校関係者評価委員による評価

①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にあたり、大変ご苦勞され多方面で尽力されている学校であると感じる。また、新型コロナウイルス感染症の扱いが、令和5年5月8日付で2類から5類へ移行する予定であるが、引き続き感染リスクがあることを生徒、保護者へ周知徹底することで、教育活動に影響が及ばないように対応を願いたい。

②当年度は第1グラウンドの照明設備の改修を実施されているが、他の屋外施設の点検や整備もすすめていただきたい。

③自転車通学生が多い学校と感じるが、交通事故防止のため交通安全教育を強化し、マナー指導の徹底をお願いしたい。

④広報でYouTubeなどを利用した動画コンテンツの配信は、意欲的で良い試みであると感じる。

⑤学校新聞「文徳点描」を毎月発行していくことは大変な労力であると思うが、現在の学校の様子、生徒の学校での生活やご家庭からの生の声が掲載されており、学校からの重要な情報発信手段であるので、今後も是非継続してもらいたい。

5. 総合評価 本年度の重点目標である下記の4項目について評価を行う。

(1) 生徒指導

「心豊かで社会に貢献できる人材」の育成という目標を立て教職員が共通認識を図り、生徒指導を行った。今年度もコロナ禍という状況ではあったが、感染防止対策を講じて、ほとんどの行事を実施することができた。今後も学校行事に工夫を加え企画して行きたい。放課後の自習室開放については、座席を指定した実施方法を今年度も継続した。部活動でも、時間的・空間的制約を受けながら、体育部19団体・文化部4団体・同好会9団体それぞれが、工夫を凝らして、活動を継続した。各委員会活動を定期的に実施し、生徒会の活性化を図った。「あいさつ」「身だしなみ」「環境美化」等についての指導を継続している。さらに、生徒が主体的に行動するような取り組みを工夫したい。

(2) 学習指導、進路指導、広報活動の更なる充実

(学習指導) ICT機器のさらなる活用のため、職員研修を年間6回実施し、教職員の自己研鑽を促した。対面授業の中で、授業公開WEEKを年間3回実施し、教師個々の授業スキルアップを目指した。

(進路指導) 一人一人の生徒のニーズに応じた進路指導を行った。1学年の生徒・保護者に対して、学年保護者会をとおして、3年後を見据えた計画的な取り組みの重要性を伝えることができた。3学年の放課後講座への参加生徒に学習意欲の高まりが見られた。来年度は参加者数を増やし、学校全体に意欲の高まりを広げたい。

(広報活動) 学校からのお知らせや動画コンテンツなど適時に更新し、今年度のYouTubeチャンネル再生回数は52,748回となり、一定の成果を得た。広報イベントの工夫と、文徳点描の記事の充実を図った。オープンキャンパスの代わりに、一昨年から学校見学ツアーを実施している。昨年度の982名を上回る996名の生徒と保護者の参加を得、本校の魅力伝えることができた。また、各中学校で実施された学校説明会で使用するプレゼンテーション用のパワーポイント資料を作成し、統一した内容で、担当職員による分かり易い説明が実施できた。

(3) 教育環境の整備

体育施設の整備として、第1グラウンドを使用している部活動の練習環境を整備した。既設照明11台を撤去し、LHDの新照明34台を設置した。資材の供給もあったが、迅速に工事を実施し、年内に完工することができた。経年劣化により割れや穴が開き、サビで変色していた相撲場の外壁の改修工事を実施した。また、セミナー室の老朽化したプロジェクターおよびスクリーン、放送機材を教育活動の充実のため、最新の機器と取り替えた。目標としていた屋外の体育施設設備の点検を令和4年度に全て終えることができなかつたため、令和5年度も引き続き点検作業を実施する。

(4) 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、体育大会・文化祭・修学旅行・強歩会等の行事を実施することができた。終業式や始業式、講演会等については、教室からリモートで参加する学年と体育館に集合する学年に分けて密を避けて実施した。また、芸術鑑賞会は椅子を並べて間隔を取り、全校生徒を体育館に入れ実施した。部活動では、熊本県高等学校総合体育大会において、相撲部が14年連続団体戦優勝、個人戦も上位独占。ソフトテニス部も団体・個人ともに優勝。バドミントン男子団体2位、空手道部女子団体組手2位、男子ソフトボール部3位、女子ソフトボール部3位、硬式テニス部男子団体3位と活躍し、相撲部・ソフトテニス部・ライフル射撃部が全国大会に、空手道部・バドミントン部・剣道部(個人)が九州大会に出場した。また、軟式野球部が全国高等学校軟式野球選手権熊本大会優勝、南部九州大会準優勝という結果を残した。硬式野球部は秋の九州地区高等学校野球熊本大会準優勝。その後、九州大会に駒を進めた。相撲部・女子ソフトボール部・空手道部は全国選抜大会への出場も果たしている。体育部19団体・文化部4団体・同好会9団体それぞれがコロナ禍においても工夫を凝らしながら活動を継続し、生徒自身の充実感につなげることができた。体育部19の内13部活動で女子の入部が可能であり、女子生徒の活躍の場も広がっている。生徒会活動では、委員会活動の活性化に取り組み、定期的な集会をとおして、生徒主体の活動ができた。

6. 次年度への課題・改善策

- 生徒へのSNSリテラシーの啓発や整容指導のあり方など課題があり、ルール作りが急務である。入学してから卒業までの3年間「4つの生活信条」の実践に基づいた生徒指導を今後も継続したい。

(学習指導) 家庭での学習時間の確保が必要。AIドールすらの利用方法等、各教科と話し合いながら、生徒への有効活用を促す。

(進路指導) 今年度の入試結果を丁寧に分析し、進路指導体制を強化することで、生徒一人一人の進路実現に繋げたい。

(広報活動) 入試情報や学校行事等の情報をより早く、より分かりやすく、正確に発信する。
- 体育施設設備の点検および新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る消耗品の確認作業を、より徹底した形で継続する。
- 生徒が主体的に学校行事に参加するよう、生徒会を中心に、生徒が自ら考え、取り組む機会を増やしていきたい。